

# 中国投資、中国生活における 危険(DANGER)について

富山県大連事務所

広辞苑でリスクという言葉を引きくと「危険」とあります。ところが、和英辞典で「危険」を引きますと「DANGER」とも出ます。企業活動や投資の際に伴う危険(リスク)という場合、それは収益(リターン)と表裏一体で「ハイリスクならハイリターン」というふうな収益とは正の相関関係がある一方、何ら相関がないのが危険(DANGER)と一般的に言われます。

今回は中国におけるこの「DANGER」のいくつかについて考えてみました。

## 1. 地震

「中国地震目録」(1983,1984)によれば、マグニチュードの大きいと想定される地震は歴史的に中国の一部地域では頻発しており、他方、一部地域ではほとんど発生がなく、「中国は地震が少ない」という考え方は部分的には正しくないといえます。

具体的には中国の新疆と四川・雲南両省の2大地域は古くから地震が頻発してきたもの。また、アムールプレートの影響による地震地域としてはその南縁にあたる黄河流域から渤海湾にかけての地域も実は地震の巣と呼べる地域ではあります。

一方、上海周辺並びに長江流域、香港周辺はほとんど大きな地震は記録されておらず、かなり安全な地域といえます。また、東北3省も内陸部ほど地震は少なくなっています。

中国の場合、日本と違い耐震構造の建築物は少なく、ひとたび大地震が起きれば、自社の生産設備や社員の人命・健康に被害が出る可能性は大きいです。また、幸いそれらが無事でも、社会インフラの寸断や取引先の生産ストップ等が想定され、上記地震地域に拠点や取引先がある場合は相応の対策が必要かと思料します。

なお、香港や上海には高層マンションが林立していますが、両地域周辺についていえば地震自体が少ないので耐震構造でなくとも、ほぼ安心ですが、中国の地震地域においてでも、同レベルの設

計施工ですませてるのも事実であり、非常に「DANGEROUS」です。

## 2. 交通事故

中国国内では、自動車の衝突事故を目撃する機会が多いといわれます。

中国の交通事故死亡者数は去年1年間で10.4万人と世界一です。日本の人口と比較すれば、そんなものかと感じられるかもしれませんが、去年の中国民間自動車保有台数が2400万台ですから、1台の(死亡)事故率はざっと日本の十倍以上ともいえます。

中国の場合、實際上日本人が加害者から損害賠償得るのは非常に困難ですから、注意するに越したことはないです。ちなみに「中国交通安全模範都市ランキング」では、1位 アモイ 以下 青島、威海、鞍山、昆山の順です。これらの都市では交通ルールが比較的遵守されてるとのことですが、中国では交通事故も「DANGER」のひとつです。

## 3. 病気

昨年のSARS騒動は中国での企業活動に短期間とはいえ、かなりの影響を及ぼしたわけですが、今後もこのような伝染病の発生する可能性はゼロではありません。冬場の病気の他、夏場の病気も今後は注意が必要です。中国気象局によれば温暖化により、テング熱等が北上する可能性があるようです。(蚊の繁殖サイクルの短期化が要因か)

肝炎や狂犬病の他、非伝染性疾患では大気汚染による呼吸器系統の病気も考慮すべきです。

最近の中国経済の発展は目ざましく、日本企業も中国特需のおかげで元気になりつつあるのも事実ですが、中国投資にはリスクもつきものですが、上記のような「DANGER」もありますので、十分な注意と対策が求められるのではと存じます。

以上